

## 今の自分にできることを 精一杯やっていきたい

### PROCESS

#### 交通事故で上下肢障害と 左脳を損傷

●事故後、意識は戻ったが両足が動かなくなり、車イスでの生活となる。同時に、左脳に損傷を受けたために記憶障害、軽度の失語症が残る

#### 運動機能リハから職業リハへ

●事故から10カ月後、神奈川県総合リハセンターで、理学・作業療法を始める  
●医療リハ終了後、職業リハビリテーションを開始し、コンピュータ操作などの訓練を行う  
●1年3カ月間にわたった職業前訓練を終了し、自宅に戻る

#### ダイエーでPOP 作成の仕事に就く

●同センターの協力のもと、懸命な就職活動を続け、自宅から車イスで通勤可能なダイエーに就職  
●3カ月間の試用期間を経て、本採用となる

#### 株式会社ダイエー



ダイエー向ヶ丘店  
営業企画担当  
(POP作成)

浅野進之介さん(26歳)  
(障害等級1級)

今から10年ほど前に遭った交通事故で、両足と右肩が動かなくなる上下肢障害と、左脳に損傷を受けたため高次脳機能障害が残りました。車イスに加え、記憶障害や軽度の失語症などの障害がありますが、現在はダイエー向ヶ丘店で、プライスカードやポスターを作成するPOPの仕事に励んでいます。

#### リハビリテーション病院での決心

浅野進之介さん(26歳)は、高校2年生への進級を目の前にした1991(平成3)年3月28日、自転車に乗っていて、トレーラーにはねられる事故に遭いました。左側を強打し、意識不明のまま病院に運ばれた浅野さんは、約70日後、看護婦さんの呼びかけに反応し、意識を回復しました。しかし、そこには浅野さんにとって厳しい現実が待っていました。寝たきりの間に足の関節が固くなり、曲げることはおろか、動かすことすらできなくなっていたのです。また、1日に何度も同じことを聞き、すぐに忘れてしまう記憶障害や軽度の失語症などの高次脳機能障害がありました。

事故から10カ月が過ぎ、浅野さんは運動機能と高次脳機能のリハビリテーションを行うために、神奈川県総合リハビリテーションセンターに転院しました。

「リハビリテーションセンターに移るまでは、自分の負った障害の大きさにうろたえ、泣いたりもしました。でも、転院してからは、先生方の支えもあり、『今できることを一つひとつやっていこう』という気持ちになりました」(浅野さん)

#### 目標を持って臨んだ 職業リハビリテーション

リハビリテーションセンターに移った浅野さんは、理学療法、作業療法による訓練を精力的に行いました。車イスでの生活のための訓練を中心とした運動機能リハビリテーション、記憶障害など高次脳機能障害に対する作業療法に励みました。93年4月にこれらのリハビリテーションを終了し、自宅に戻りましたが、高校への復学はあきらめ、就職への道を考えるようになりました。

96年8月、同センター内の七沢更生ホームに入所し、職業前訓練をスタートしました。

「コンピュータの操作ができるようになりたい、そして就職をしたい」という本人の希望を考慮して、コンピュータのキーボードが打てるようになる訓練が1年3カ月の間繰り返されました。訓練が終了する頃には、キーボード操作もスムーズになり、その他、漢字の読み書きや計算能力のテストでも、時間がかかるものの正解を出せるようになりました。



コンピュータで商品名を入力して値段のシールを貼る

#### 強力な支援と あたたかい配慮に支えられて

訓練を終え、自宅に戻った浅野さんは、障害者集団職業相談会に挑みましたが、就職先は容易には見つかりませんでした。就職相談を受けていた同センター職能科カウンセラーの田中晃さんは、浅野さんの自宅から半径500メートル以内にある事業所を訪問し、繰り返し同じ作業をする業務での就職先を探しました。

同センターの強力な支援と、「一般の社会に出てみたい」という本人の強い希望と努力が実り、98年1月、ダイエー向ヶ丘店への就職(試用)が決まりました。

就業内容は、コンピュータで商品名を打ち込み、プリントアウトしたものに値段のシールを貼って値札などを作成するPOPの仕事です。浅野さんを受け入れたPOP室では、同センターからのアドバイスを受けながら、ベテラン従業員が辛抱強く、繰り返し同じことを説明するなど、浅野さんが業務を覚えられるように支援しました。また、浅野さんと毎日業務日誌を交わしてコミュニケーションを深め、浅野さんのできること・できないことを判断し、業務配分を決めるなどの配慮を行いました。

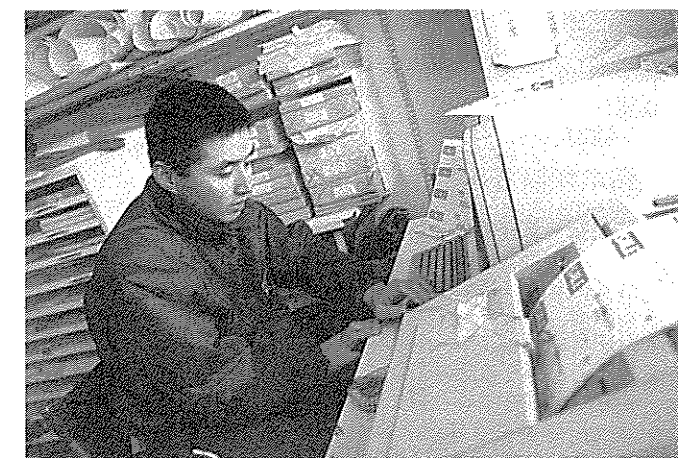
こうした支援に支えられ、浅野さんは3カ月間の試用期間を経て、98年3月にパート社員採用となりました。現在は、1日4時間・週5日の勤務をこなしています。同店は、浅野さんの自宅から15分ほどのところにあり、浅野さんは晴れの日はもちろん、雨の日もレインコートを着て、自力で車イス通勤をしています。

#### 忙しく働くことの充実感と 回復への兆し

浅野さんは仕事に慣れるまでのことについて、「最初は思い通りに作業ができず、自分にイライラすることもありました」と話します。しかし、浅野さんの頑張る姿は、POP室の先輩、同僚から、「何事にも負けない頑張り

屋」と評価されています。当初は1日に5枚がやっとだったラベル作成も、現在は120枚以上作成できるまでに上達し、浅野さんは働くことの充実感を感じています。

責任を持って仕事をするのが、脳への刺激となり、浅野さんは高次脳機能障害を一步一步、着実に克服してきています。

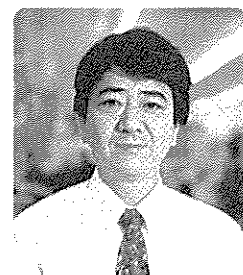


コンピュータでの入力もスピーディーに

#### 職場概要

■住所/神奈川県川崎市多摩区登戸2789  
■事業内容/小売業  
■従業員数/214名

### OFFICE WATCH



ダイエー向ヶ丘店  
採用教育課長  
及川 均さん

浅野さんを当店で受け入れることができたのは、1人で通勤可能であること、コンピュータ操作ができることでPOP作成の職務に就いてもらえたからです。また、本人とご家族、神奈川県総合リハビリテーションセンターから、浅野さんの障害に関する詳しい説明と、繰り返し業務を指導してくれる先輩や、同僚をつけてほしい、といった職場で必要な支援についても正直にお話しいただいたことも大きかったですね。

障害者雇用には、全社的にも力を入れていて、当店でももう1人、商品搬入部で障害者の方を雇用しています。しかし、当店は建物が古いために、階段や段差が多く、残念ながらバリアフリーは遅れています。現状では、小さな段差や階段に板を張ってスロープにしたり、搬入用のエレベーターを利用することで、浅野さんが車イスで勤務できるようにしています。

POP作成作業の大半は、同じ作業の繰り返しなので、通常なら飽きてしまいがちですが、浅野さんは丁寧かつ正確にこなしてくれるので、安心して任せることができます。作業もだいたいスムーズになり、忙しい時期にも対応できるようになってきています。